



2 研究の実際 > (2) 授業の実際

エ 授業実践 (小学校 第4学年 1時目)

- ◆本時のねらい：グループでの交流活動を通して、自分や友達の「強み」を知ることができるようにする。
- ◆本時のめあて：自分や友達の「強み」を知ろう。
- ◆授業前の取り扱い
 - ・グループを意図的に構成し、児童の心理的な負担を減らすように配慮する。
- ◆指導形態
 - ・「自分ウェビング」の活動において、児童の理解を深めてスムーズな活動を促すために、「強み」の考え方の具体的な例示などを、センター所員 (T1) と学級担任 (T2) のチームティーチングで行った。
- ◆本時の展開

学習活動と授業スライド	・児童の様子や教師の気付き	○教師の働き掛け
<p>1 3時間の学習活動の目標を知る。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・「行こう！『強み』キッズ」と書いたイラストを提示すると「わあ」と声が上がり、興味を示している様子が見られた。 ・「強み」という言葉を聞き慣れないためか、困惑した表情が見られた。 	<p>○3回の授業で、自分や友達の「強み」を見付け、伝え合う活動を通して、自分や友達の「強み」を知る学習をしていくことを伝えた。</p>
<p>2 話を聴くときの約束を知る。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・体を話し手の方に向け、顔を見ながら話を聴いていた。  <p style="text-align: center;">【話を聴く様子】</p>	<p>○「話をきくときの約束」を知らせ、安心できる雰囲気の中で互いの思いや考えを伝え合うことができるようにした。</p>
<p>3 構成的グループエンカウンター「4つの窓」の活動を行う。</p> <p style="text-align: right;">交流活動</p> <p>(同じ答えを選んだ者)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃おとなしい児童も、進んで活動に参加できていた。全ての児童が、1つを選んだ理由を友達に伝えることができた。 	<p>○互いの思いや考えを伝え合うことにより、親和的な雰囲気づくりをした。</p>



【「4つの窓」の活動の様子】

4 本時のめあてを知る。



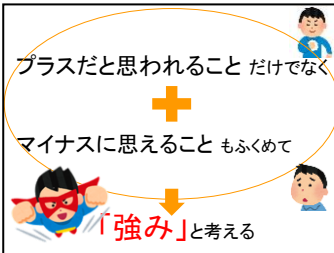
・本時のめあてと学習内容を知り、「おもしろそう」という声が上がった。

○スライドを提示し、「強み」の定義と「強み」を理解するポイントについて説明した。

5 「強み」について知る。



・「『強み』とは何だと思えますか」という問い掛けに対して「力が強いことだと思えます」という答えが返ってきた。「強み」は児童にとって身近な言葉ではなく、抽象的で理解しにくいものであると感じた。



6 「自分ウェビング」の活動を行う。

交流活動（3人）

○ワークシートを配付した。
○スライドを提示し、活動内容と方法を説明した。

(1) 自分に関すること
(好きなものや苦手なことなど)を書く。



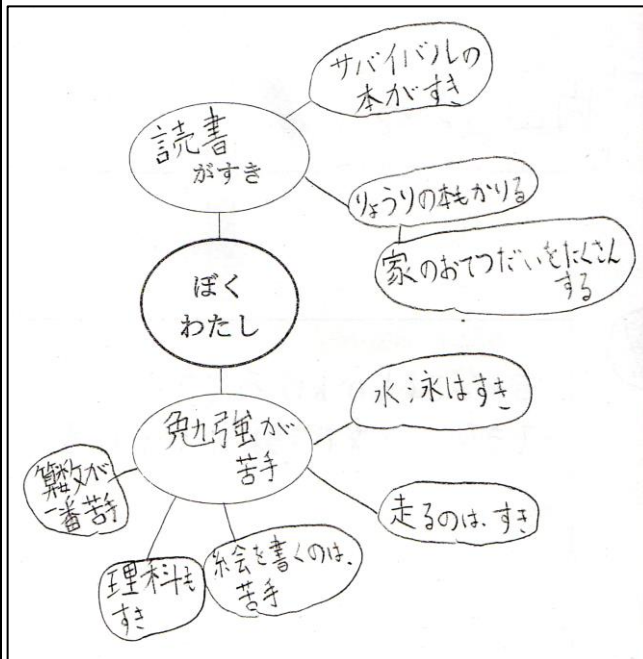
・教師の好きなものや苦手なことに興味を持った
り、スライド画面に注目して話を聴いたりする
姿が見られた。



【活動の説明を聴く様子】

・全ての児童が、すぐに自分に関することを書き始
めた。活動の時間を12分間与えたが、なかなか
鉛筆を置かず、もっと書きたい様子が見られた。
・ウェビングの手法を用いた活動は初めてであ
ったが、スライドを参考にしながら関連のあるも
のを線でつなげて書くことができた。

○T1の「自分ウェビ
ング」を例示し、ウ
ェビングの書き方
を説明した。

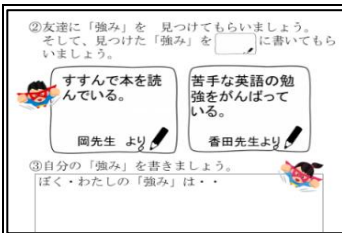


【Aさんが記述した「自分ウェビング」】

(2) グループの友達の
ワークシートに、友
達の「強み」を考
えて書く。

・T2が、「英語が苦手
で英会話教室に通っ
ているT1の『強み』
は何かな」と考え込
むと、「先生になっ
ても勉強しているこ
とかな」とつぶや
いたり、隣の席の友
達と小声で話し合
ったりする姿が見
られた。

○T2がT1の「自分
ウェビング」を参
考にして「強み」を
考えて例示し、友
達の「強み」の考
え方を説明した。



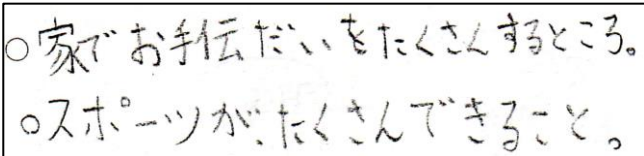
・友達の「自分ウェビング」を見て、そこから「強み」を見つけて書くことは難しく、予想以上に時間が掛かった。しかし、全ての児童が、スライドを参考にしながら友達の「強み」を見つけて書くことができた。



【グループの友達が記述したAさんの「強み」】

・友達が書いてくれた「強み」を、嬉しそうに読んでいた。
 ・全ての児童が、自分の「強み」を1つ以上見付けて書くことができた。

(3) 友達が書いてくれた「強み」と「自分ウェビング」を参考に、自分の「強み」を考えて書く。



【Aさんが記述した自分の「強み」】


(4) 自分と友達の「強み」を伝え合う。

・ワークシートに書いたことを発表するため、全ての児童が安心して伝えることができていた。自然に拍手をする姿も見られた。



【「強み」を伝え合う様子】

○友達に「強み」を書いてもらったワークシートに目を通す時間を設けた。
 ○T2が書いた「強み」と「自分ウェビング」を参考にして考えた「強み」を例示し、自分の「強み」の考え方を説明した。
 ○「強み」を伝え合うことにより、互いに自他のよさに気付くことができるようにした。

<p>7 本時の活動を振り返る。</p> <p style="text-align: center;">交流活動（3人）</p> <p>(1) 振り返りシートに記述する。</p> <p>(2) グループで気付きを伝え合う。</p> <p>8 次時の活動を知る。</p>	<p>・板書やワークシートを手掛かりにしながら、活動を振り返る姿が見られた。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>自分の強みを知ることができた。友だちの強みも知ることができた。もっと自分の強みを知りたい。</p> </div> <p style="text-align: center;">【児童が記述した感想や気付き】</p> <p>・友達顔を見ながら静かに聴くことができていた。</p> <p>・2時目の活動内容について簡単に知らせて、『『強み』と思えることをもっと見付けてみよう！』と書いたキャラクター付きのスライドを提示すると、笑顔になった。「楽しみだね」と友達に話し掛ける児童もいた。</p>	<p>○振り返りシートを配付した。</p> <p>○気付いたことや感じたことを記述してグループで伝えることにより、自己理解や他者理解を深めることができるようにした。</p> <p>○次の時間も「強み」について学習することを伝え、興味や関心を継続できるようにした。</p>
<div style="text-align: center;">  </div>		

◆授業後の取り扱い

- ・学級通信等で学習活動や児童の感想を紹介しました。
- ・ワークシートや振り返りシートに、教師が気付いたことや感じたことを書きました。
- ・ワークシートと振り返りシートをファイルにとじて、児童が学習を振り返ることができるようにしました。

◆本時の考察の視点

- ・本時のねらい「グループ活動を通して、自分や友達の『強み』を知ることができるようにする」を達成することができたかを、振り返りシートの結果と記述から考察します。考察の視点は、以下のとおりです。

【① 学習に進んで参加することができたか】

振り返りシートの「学習に進んで参加することができましたか」の質問で、意欲的に自分や友達の「強み」を知ろうとしたかを考察します。

【② 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたか】

振り返りシートの「自分や友達の『強み』を伝え合うことができましたか」の質問で、自分や友達の「強み」を知るために自他の「強み」を伝え合うことができたかを考察します。

【③ 自分の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「自分の『強み』を知ることができましたか」の質問で、自分の「強み」を知ることができたかを考察します。

【④ 友達の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「友達の『強み』を知ることができましたか」の質問で、友達の「強み」を知ることができたかを考察します。

◆本時の考察（「振り返りシート」の結果と記述から）

【① 学習に進んで参加することができたか】

- 振り返りシートの「学習に進んで参加することができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した児童の割合は100%でした（図1）。また、振り返りシートには、「自分のいろいろな『強み』がよく分かって楽しく勉強できたのでとてもいい学習でした」「頭と心を使って考えることができて良かったです」という記述が見られました。これらのことから、児童は分かることの面白さや考えることの楽しさを感じながら、進んで学習活動に参加し、意欲的に自分や友達の「強み」を知ろうとしたと考えます。

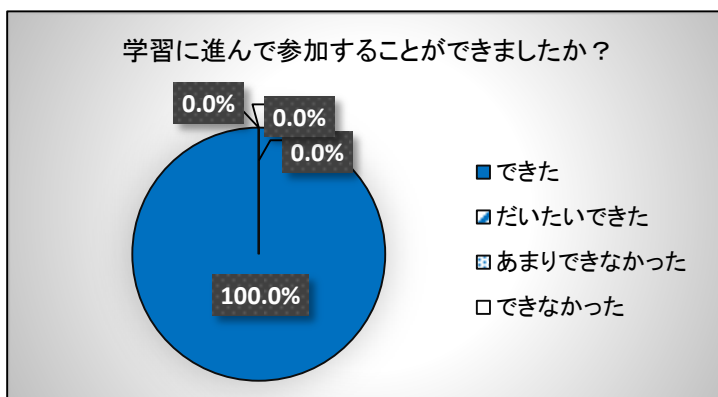


図1 学習に進んで参加することができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

【② 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたか】

○振り返りシートの「自分や友達の『強み』を伝え合うことができたか」の質問に対して、「できた」と回答した児童の割合は100%でした（図2）。また、振り返りシートには、「友達の『強み』と自分の『強み』を伝え合って『強み』を知れて良かった」「自分が知らなくても、友達が自分のことをよく分かってくれていることが分かった」という記述が多く見られました。これらのことから、児童は「自分ウェビング」の学習活動やグループでの交流活動を通して、自分や友達の「強み」を知るために自他の「強み」を伝え合うことができたと考えます。

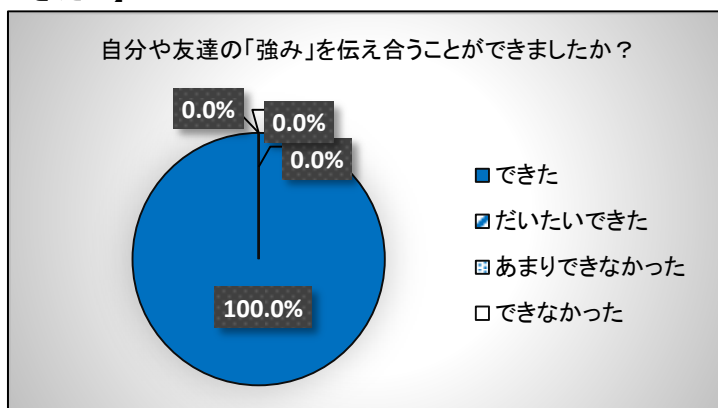


図2 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

【③ 自分の「強み」を知ることができたか】

○振り返りシートの「自分の『強み』を知ることができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した児童の割合は85.7%、「だいたいできた」と回答した児童の割合は14.3%でした（図3）。また、振り返りシートには、「自分の『強み』をいっぱい知れて良かったです」「自分の『強み』を知ることができた。もっと自分の『強み』を知りたい」という記述が多く見られました。これらのことから、児童は「自分ウェビング」の学習活動やグループでの交流活動を通して、自分の「強み」を知ることができたと考えます。

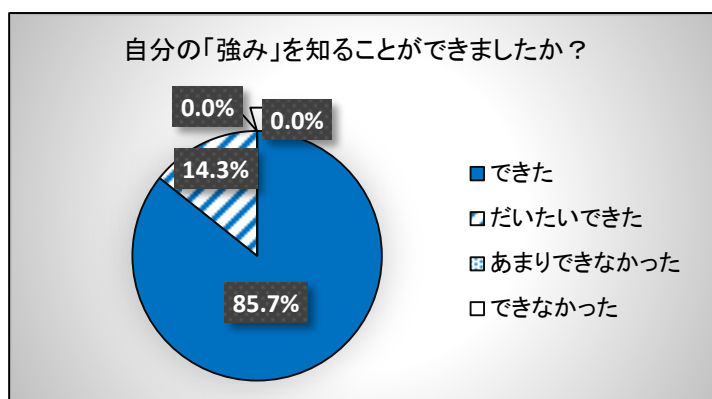


図3 自分の「強み」を知ることができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

【④ 友達の「強み」を知ることができたか】

○振り返りシートの「友達の『強み』を知ることができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した児童の割合は100%でした（図4）。また、振り返りシートの記述には、「『強み』はとてもいいことだなと思いました。自分や友達の『強み』が知れて良かったです」「『強み』を伝え合って友達の『強み』を知れて良かった」という記述が多く見られました。これらのことから、児童は「自分ウェビング」の学習活動やグループでの交流活動を通して、友達の「強み」を知ることができたと考えます。

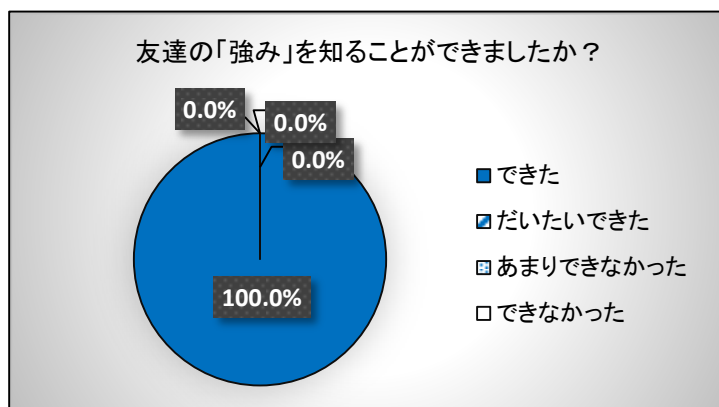


図4 友達の「強み」を知ることができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

以上の結果より、1時目の授業において、児童は意欲的に授業に参加して、自分や友達の「強み」を知り、それを伝え合うことができたことが分かりました。しかし、「自分の『強み』を知ることができましたか」の質問に対して「だいたいできた」と答えた児童の振り返りシートの記述に「先生や友達の『強み』を見つけることができて良かったです」と、他者の「強み」に関することのみが書かれていました。また、小学校4年生で自己肯定感が「低い」「やや低い」「普通」の児童の割合が約38%という現状（理論研究-2 図4「学年別の自己肯定感」）から、他者に比べ自分の「強み」の方が見付けにくいと感じている姿がうかがえました。よって、全ての児童が抵抗なく安心して「強み」を見付けることができるように、2時目以降も、友達から「強み」を見付けてもらう活動を継続して行う必要があると考えます。